

## 個別の指導計画作成例

【例】様式1(児童生徒に関する記録)

## 個別の指導計画

作成日、最新の更新日を入力します。

作成日	令和 年 月 日
更新日	令和 年 月 日

フリガナ	地教委からの書類や 「在留カード」等を基に、 正確に記入します。			性別		国籍	ブラジル	在留資格	定住者	
名前				生年月日	平成・令和 年(西暦 年) 月 日					
住所				連絡先						
入国年月日	令和・平成 年(西暦 年) 月 日	学校受入年月日	令和・平成 年(西暦 年) 月 日							
家族構成	名 前			続柄	国 種	本人との言語	日本語理解の状況・備考			
				父	ブラジル	ポルトガル語	簡単な日本語での会話が可能			
				母	ブラジル	ポルトガル語	日本語での会話は困難			
				弟	ブラジル	ポルトガル語	日本語での会話は困難			
家庭への連絡 (該当するものを ○で囲みます)	1 日常的な連絡について、日本語で理解できますか。 2 懇談会等の説明について、日本語で理解できますか。 3 「2」が困難な場合、通訳を帯同することができますか。	( 可能 )	( 困難 )	( 可能 )	( 困難 )	( 可能 )	( 困難 )	適宜、更新 します。		
学年	年齢	就学等の状況・期間				特記事項 (学校外での支援状況等)				
	0	出身地 ブラジル								
	1	ブラジル								
	2	ブラジル								
	3	ブラジル								
	4	ブラジル								
	5	ブラジル								
	6	2月に来日 ○○市立○○こども園に入所								
小1	7	○○市立○○小学校に入学 特別の教育課程による指導				地域の日本語教室「○○」週1回				
小2	8	○○市立○○小学校 特別の教育課程による指導				地域の日本語教室「○○」週1回				
小3	9	9月ブラジルに帰国のため退学 (ブラジル△△小学校へ)				地域の日本語教室「○○」週1回				
小4	10	3月に来日 (ブラジル△△小学校より)								
小5	11	○○市立●●小学校に編入 特別の教育課程による指導				地域の日本語教室「○○」週1回				
小6	12	○○市立●●小学校卒業				地域の日本語教室「○○」週2回				
中1	13	○○市立□□中学校入学				地域の日本語教室「○○」週2回				
中2	14	○○市立□□中学校 ブラジルに一時帰国(9月~12月)				地域の日本語教室「○○」週2回				
中3	15	○○市立□□中学校卒業				地域の日本語教室「○○」週2回				
中学校卒業後の進路志望 ・全日制高校に進学し、卒業後、日本での就職を希望。 (2019.4より現在まで)					その他 (発達障害等の診断の有無、宗教上の配慮事項等) ・○○教のため、○○を食べることができない。 ・○○病院発達支援センターを受診し、「ADHD」という診断を受けた。(R2.8)					

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
年度	平成27	平成28	平成29	平成30	2019	令和2	令和3	令和4	令和5
在籍校	○○小	○○小	○○小	-	●●小	●●小	□□中	□□中	□□中
取り出し指導 (週 時間)	8時間	4時間	4時間	-	2時間	-	-	-	-
入り込み指導 (週 時間)	-	-	-	-	2時間	2時間	2時間	2時間	2時間

## 個別の指導計画作成例

個別の指導計画作成例		個別の指導計画						●作成日、最新の更新日を入力します。							
【例】様式2①(指導に関する記録:「特別な教育課程」を編成する場合)								作成日	令和 年 月 日						
								更新日	令和 年 月 日						
年組 フリガナ	年 組			作成者				国籍							
	児童生徒名							母語等 (使える言語)							
指導者 支援者				指導場所				取り出し 指導時数	週 時間						
		年度当初評価		後期開始時の評価(中間評価)			指導目標(年度当初・中間評価)			年度末評価					
発達ステージ	を支える判断・表現言語の表現力	評価段階	各段階の特徴		評価段階	各段階の特徴		評価段階	各段階の特徴		評価段階				
		B	身近なこと・経験したこと、幼児・低学年前半の内容。対話による支援を得て、おおまかに理解・表現。		B	身近なこと・経験したこと、幼児・低学年後半の内容。より理屈で理解・表現。		B	身近なこと・経験したこと、幼児・低学年後半の内容。より理屈で理解・表現。		B				
習得ステップ	日本語の力	一番高い言語・技能	母語	話す・聞く	一番高い言語・技能	母語	話す・聞く	母語	話す・聞く	母語	話す・聞く				
		聞く・話す	2	ごく限られた語、文字の習得の開始。	2	ごく限られた語、文字の習得の開始。	2	ごく限られた語、文字の習得の開始。	2	ごく限られた語、文字の習得の開始。	3				
		読む	1	ごく限られた語、文字の習得の開始。	2	ごく限られた語、文字の習得の開始。	2	ごく限られた語、文字の習得の開始。	2	ごく限られた語、文字の習得の開始。	3				
書く	1	ごく限られた語、文字の習得の開始。	2	ごく限られた語、文字の習得の開始。	2	ごく限られた語、文字の習得の開始。	2	ごく限られた語、文字の習得の開始。	2						
「特別の教育課程」による日本語指導	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
	日本語学習内容	①サバイバル日本語													
		②日本語基礎	●	●	●	●	●	●						●	
		③技能別日本語				●	●	●						●	
		④日本語と教科の統合学習					●	●							
		⑤教科の補習							●	●					
前期(年度当初評価)													後期(中間評価を基に)		
指導計画 (日本語学習内容の内容別に、①～⑤を文頭に付けて記入することが望まれます)		②絵や図、写真等を手がかりに、分かち書きで書かれた短文を音読できるようにする。 ②長、拗、撥、促音を歌で覚え、単語をひらがなとカタカナで書けるようにする。 ④教科書本文をやさしい日本語に書き直したリライト教材を使い、内容を理解できるようにする。											②絵や図、写真等を手がかりに、カタカナや低学年で習う漢字が混じった文章を読み、大まかな内容を話したり書いたりできるようになる。 ②単語カードと定型文カードを使って、絵で意味を確認しながら発話練習を繰り返し、思いや考えを言えるようになる。 ④教科学習に必要な単語について、やさしい日本語への言い換えによって理解できるようにしながら、教科学習が定着するようになります。		
評価 (指導内容) (指導方法) (学習状況)等 (日本語学習内容の内容別に、①～⑤を文頭に付けて記入することが望まれます)		②教師や友達がゆっくりと分かりやすく話すことで、内容を聞き取り、簡単な単語をひらがなで概ね書けるようになった。 ④教科書のリライト教材を繰り返し声に出して読むことを通して、内容について分からぬことを質問できるようになった。											①どのような指導の結果、どのような習得結果となったかを記入します。次年度の指導の参考となる内容を記入します。 ②前期後期の2回に分けて記載する形式です。 ③3学期制で記載する場合は、形式を変更して入力することができます。		
上記以外の指導・課題等		・社会科の学習は、入り込み指導を行う。(週2時間) ・毎週土曜日、国際交流協会が開催する日本語教室へ参加している。													

## 個別の指導計画作成例

個別の指導計画作成例			個別の指導計画		●作成日、最新の更新日を入力します。		
【例】様式2②(指導に関する記録:「特別な教育課程」を編成しない場合)			作成日	令和 年 月 日			
			更新日	令和 年 月 日			
年組 フリガナ	年 組			国籍			
児童生徒名					母語等 (使える言語)		
学年 小1	年度当初評価 発達ステージ 習得ステップ	中間評価 発達ステージ 習得ステップ	時間 数 (週) 入り込み指導の 度	前期(中間評価)		後期(年度末評価)	年度末評価 ステージ ステップ 3 すく読む書く
	B	B		2 時間	・支援者に繰り返すことで、ひらがなを読むことができるようになった。	・対話による支援を得て、単語で区切りながら、短い文をゆっくりと読むことができるようになった。また、生活に関わる出来事を、2、3の単文で書けるようになった。	
小2			時間	<b>評価(指導内容・指導方法・学習状況)等</b> ①「ことばの力のものさし」の「包括的なことばの発達ステージ」と「日本語指導の習得ステップ」を基に評価します。 ②入り込み指導者は、本様式を用いて、在籍学級での学習状況等を蓄積することが大切です。 ③転学先、進学先への引継ぎを含め、次年度の指導に活用する方が望まれます。			
小3			時間				
小4			時間				
小5			時間				
小6			時間				
中1			時間				
中2			時間				
中3			時間				
文化的言語的に多様な背景をもつ外国人児童生徒等のための「ことばの発達と習得のものさし」							
「包括的なことばの発達のステージ」の各段階の特徴							
A	身近なこと・経験したこと、幼児・低学年前半の内容。対話による支援を得て、断片的に理解・表現						
B	身近なこと・経験したこと、幼児・低学年前半の内容。対話による支援を得て、おおまかに理解・表現						
C	身近なこと・経験したこと、低学年の内容。順序に沿った理解・表現、出来事作文						
D	中学年の教科学習内容、基本的概念。因果関係の理解・説明、テーマ作文						
E	高学年から中学の教科学習内容、抽象的概念。主題・要点の解釈、一貫性のある説明、ジャンル別作文						
F	中学から高校の教科学習内容、抽象的概念、実社会の話題。多角的・批判的視点からの議論・意見、分析・評価、推敲						
「日本語の習得ステップ」の各段階の特徴							
1	ごく限られた語、文字の習得の開始						
2	ごく限られた語、文字の習得の開始						
3	身近な語彙・表現、単文						
4	日常的な語彙・表現(制限あり)、単文から基礎的な重文・複文						
5	日常的な語彙・表現(幅広い)、低学年レベルの談話・文章(自由な単文・重文・複文の生成)						
6	中学年レベルの教科学習に必要な語彙・表現、談話・文章						
7	高学年から中学レベルの教科学習に必要な語彙・表現、談話・文章						
8	中学から高校レベルの教科学習に必要な語彙・表現、談話・文章						